

09 専門調査会及びワーキンググループ

委員会の下に16の専門調査会を設置し専門的な検討を進めています。また、特定の分野について集中的に審査を行う必要がある場合には、ワーキンググループ（WG）を設置します。

専門調査会

企画等専門調査会	農薬第三専門調査会	器具・容器包装専門調査会	かび毒・自然毒等専門調査会
添加物専門調査会	農薬第四専門調査会	汚染物質等専門調査会	遺伝子組換え食品等専門調査会
農薬第一専門調査会	農薬第五専門調査会	微生物・ウイルス専門調査会	新開発食品専門調査会
農薬第二専門調査会	動物用医薬品専門調査会	プリオン専門調査会	肥料・飼料等専門調査会

ワーキンググループ（WG）

栄養成分関連添加物WG	評価技術企画WG
薬剤耐性菌に関するWG	有機フッ素化合物（PFAS）WG
食事由来の化学物質のばく露評価WG	ビスフェノールA WG

専門調査会やワーキンググループに関する情報は
こちら▶



10 2024年度食品健康影響評価実績

食品健康影響評価とは、食品に含まれるハザード（危害要因）の摂取（ばく露）によるリスク（健康への悪影響が発生する確率と影響の程度）を、ハザードの特性等を考慮しつつ、付随する不確実性を踏まえて科学的に評価することです。食品安全委員会ではリスク管理機関（消費者庁、厚生労働省、農林水産省など）からの評価要請を受け食品健康影響評価を行ってきました。

2024年度に終了した食品健康影響評価の件数 計 **83** 件（2024年度までの累計 3330件）

● 添加物	3 件	● 農薬	31 件
● 動物用医薬品	6 件	● 器具・容器包装	2 件
● プリオン	3 件	● 遺伝子組換え食品等	17 件
● 肥料・飼料等	19 件	● その他（有機フッ素化合物（PFAS））	2 件

11 「食事由来の化学物質のばく露評価ワーキンググループ」を設置しました

食品安全委員会が実施する食品健康影響評価におけるばく露評価は、各専門調査会が定める指針に基づきそれぞれ実施されてきました。食事由来のばく露評価手法の国際的なガイダンスであるEHC240（第6章）が2020年に改訂されたことを受け、我が国においても最新のばく露評価手法を活用した評価手法を導入し、国際水準のばく露評価を行うことが求められています。

この課題は、特定の化学物質を対象とするものではなく、ばく露評価に資する最先端の手法を、実際の評価業務にどのように導入するかを検討するものです。そのため、分野を横断した総合的な議論が必要となります。

こうした背景を踏まえ、2025年3月に「食事由来の化学物質ばく露評価ワーキンググループ」を新たに設置しました。